育成 モノづくり人材 Vol. 63

兵庫県立 西脇工業高校

知財学習、授業で特許取得

兵庫県のほぼ中央に位置する北播磨地域。その一角の自然豊かな西脇市に兵庫県立西脇工業高校はある。今年で開校54年。駅伝競技ではその名が全国に知られ、全国高等学校駅伝競走大会で男子陸上部は優勝8回を誇る名門校だ。

「時を守り」「場を清め」「礼を正す」。

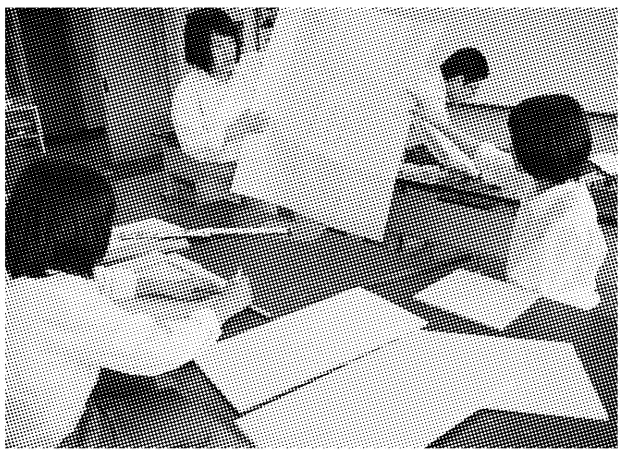
寺岡校長

「社会に出てからも必要な礼儀が部活動などを通じ自然と身についている」と評価する。

人口減少に伴う生徒の減少で、同校も学科の再編を検討するなど学校運営に課題を抱えている。その中で「魅力ある学校づくり」として情報・繊維科の課題研究「知的財産学習」を取り入れている。同校は2012年に工業所有権情報・研修館（東京都千代田区）から知的財産人材育成の開発推進校に指定された。授業の中で自分たちのアイデアを製品として形にし、特許を取得する。文部科学省の学校から講演依頼が舞い込む。

【DATA】▷校長＝寺岡正人氏▷所在地＝兵庫県西脇市▷学科構成＝機械、電気、工業化学、情報・繊維、総合技術▷生徒数＝704人▷主要設備＝CAD、CAD／CAM、マシニングセンター、ジャカード、高圧実験装置など▷主な進路＝川崎重工業、神戸製鋼所、関西電力、JR西日本、三菱電機、トヨタ自動車、ワコール、香川大学、早稲田大学、大阪工業大学など

地域交流にも力を入れる。6月には障がい者の自立支援などを行うNPO法人camb io（カンビオ、兵庫県多可町）の運営によるどんなどのメニューを提供する。生徒は温かい食事ができ、そこで働く障がい者とふれあうことで障がい福祉教育にもつながる。学校組織に同様の運営者が入るのは、県内で初めてという。



情報・繊維科の課題研究でモノづくりに挑む生徒ら

地元企業への就職支援も積極的だ。3月に商工会や県などと協力し、1―2年生向けに校内合同企業説明会を初開催。モノづくりを中心とした地元企業24社が集まり、製品などを展示した。参加生徒や企業からはお互いを知る良いきっかけになったと好評で、地元企業の人材確保に一役買う。

人口減少に伴い、北播磨地域でも今後は高校受験生の減少が見込まれる。伝統を守りつつ、新しいことも積極的に取り入れる寺岡校長は「時代のニーズに応じた新たな分野で魅力ある学校づくりを目指す」と意気込む。

（神戸・大原佑美子）

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社